

都市再生整備計画 事後評価シート
秋田駅周辺地区(第二期)

平成27年2月

秋田県秋田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	秋田県		市町村名	秋田市		地区名	秋田駅周辺地区(第二期)			面積	74.4ha	
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	2,736.7(百万円)	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 基幹事業 高質空間形成施設(中通二丁目バス停広場)、土地区画整理事業(秋田駅東第三地区、秋田駅西北地区) 提案事業 事業効果分析事業、まちづくり活動推進事業(まちづくり市民活動育成・支援事業)									
	当初計画から削除した事業		基幹事業		なし		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	新たに追加した事業		基幹事業		なし							
			提案事業		なし							
	交付期間の変更		当初変更	平成22年度～平成26年度		なし		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数値 モニタリング 評価値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	指標1	区画整理事業区域等の居住人口	人	4,730 H21	4,730 H26		4,690	×	あり なし ●	土地区画整理事業の進捗は遅れているものの、狭隘道路の解消や宅地の再配置が進んでおり、居住人口の減少が見られるのは、特定の地区に限られていることから、建物移転補償等に起因する一時的な減少であると考えられる。	-	
	指標2	秋田駅東口の通行量	人/9h	14,676 H21	15,000 H26		21,779	○	あり なし ●	アルヴェや秋田駅西連絡自由通路(ぼぼろーど)等で開催された各種イベントにより、秋田駅東西間の一体的なにぎわい創出が図られ、歩行者の増加や回遊性の向上に大きく寄与した。	-	
	指標3	拠点センターアルヴェの入館者数	万人	336 H21	336 H26		317	△	あり なし ●	まちづくり市民活動への多面的な支援や様々な団体が実施主体となったイベントの開催等により、新たな人の流れやイベントを通じた交流が生まれるなど、にぎわい創出に一定の効果を得られた。	平成27年7月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数値 モニタリング 評価値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	その他の数値指標1	拠点センターアルヴェ内の市民交流プラザ利用者数	人	518,571 H21			565,555			まちづくり市民活動育成・支援事業の推進により、市民活動の拠点として、恒常的な利用が図られたほか、市民のまちづくりへの参加意欲の醸成、新たな担い手の育成に寄与した。	平成27年7月	
4)定性的な効果発現状況	「エリアなかいち」(中通一丁目地区市街地再開発事業)の整備により、中心市街地における交流人口の拡大が図られたことも、相乗効果として、秋田駅東西間の一体的なにぎわい創出に寄与した。											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	・官民連携によるイベント等の開催 ・まちづくりの担い手育成講座の開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									今後も市民活動の啓発事業を推進し、まちづくり活動に携わる人材育成を図るとともに、新たな市民活動団体の立ち上がりを支援していく。
	持続的なまちづくり体制の構築	・市民ボランティアによる秋田拠点センターアルヴェの運営サポート ・アルヴェきらめきパフォーマーとの連携 ・市民交流サロンの利用促進	都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									市民活動の拠点の場として、多くの市民が利用しやすい環境整備に努めるとともに、自立した組織がまちづくり活動へ継続的に取り組むことができるよう支援していく。

秋田駅周辺地区(第二期)(秋田県秋田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標: 駅東西の一体的整備と健全な市街地形成による、魅力的で活力あるまちづくり 目標1: 土地区画整理事業の推進により、健全な市街地の形成、市民の生活環境の向上を図り、減少傾向にある秋田駅周辺地区の居住人口の維持を図る。 目標2: 秋田拠点センターアルヴェを核として、駅周辺のにぎわい創出を促進する。 目標3: 駅周辺において、市民等が多目的に利用できる環境整備を図り、地域のエリアマネジメントへの取り組みを支援する。	区画整理事業区域等の居住人口	単位: 人	4,730	H21	4,730	H26	4,690	H26
	秋田駅東口の通行量	単位: 人/9h	14,676	H21	15,000	H26	21,779	H26
	拠点センターアルヴェの入館者数	単位: 万人	336	H21	336	H26	317	H26

□ 基幹事業(高質空間形成施設)
 中通二丁目バス停広場
 (買物広場バス待待合上屋修景整備)

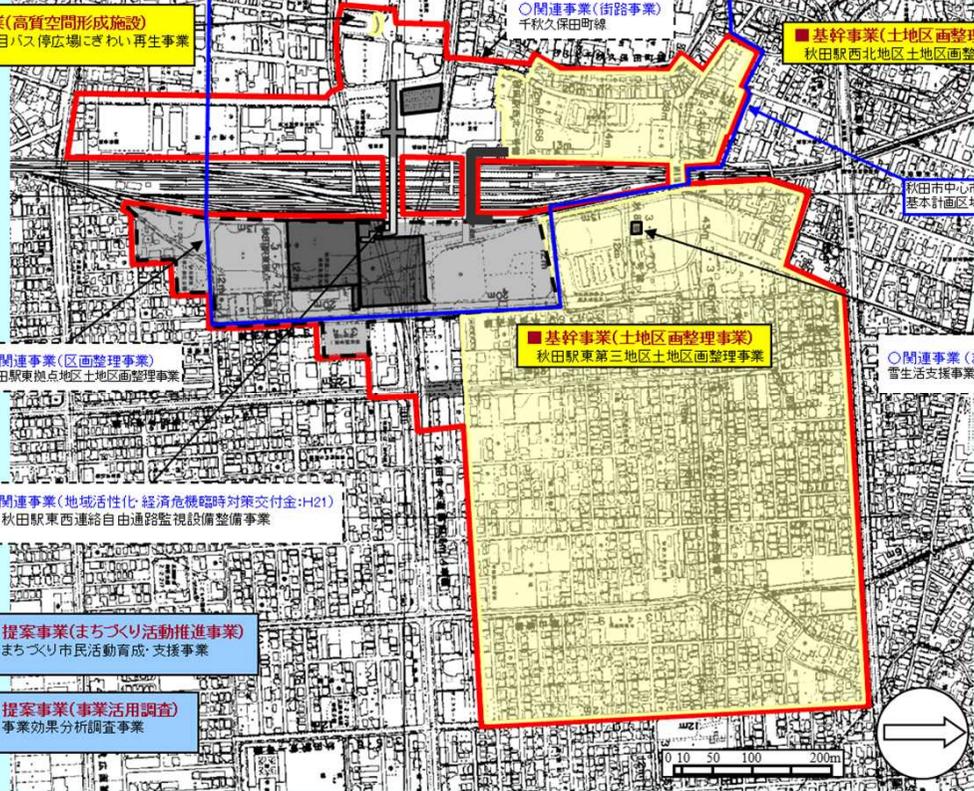


□ 基幹事業(高質空間形成施設)
 ・中通二丁目バス停広場にぎわい再生事業

■ 基幹事業(土地区画整理事業)
 秋田駅西北地区土地区画整理事業

□ 基幹事業(土地区画整理事業)
 秋田駅東第三地区
 (平成23年8月地区内全面開通(明田外旭川線))





凡例
 基幹事業
 提案事業
 関連事業

□ 提案事業(まちづくり活動推進事業)
 まちづくり市民活動育成・支援事業



□ 提案事業(まちづくり活動推進事業)
 ・まちづくり市民活動育成・支援事業

■ 基幹事業(土地区画整理事業)
 秋田駅東第三地区土地区画整理事業

□ 提案事業(土地区画整理事業)
 秋田駅西北地区



まちの課題の変化

- ・秋田駅東西歩道橋の整備により、秋田駅東西間の連続性が強化され、低炭素型都市への転換を図る契機は創出できた。
- ・秋田駅西口バス乗り場修景整備や買物広場バス待待合上屋修景整備、秋田杉ストリートファニチャー整備等により、地域資源である秋田杉を活用した街並み形成が図られてきている。
- ・土地区画整理事業の進捗に伴い、狭隘道路の解消や宅地の再配置が進んでいるほか、低未利用地の解消が図られてきている。
- ・アルヴェや秋田駅東西連絡自由通路(ほぼろ一ど)等におけるイベントの実施により、秋田駅東西間の一体的のにぎわい創出を図ることができた。
- ・市民交流サロンの利用を契機とした市民活動団体の立ち上げやまちづくりイベントへの参加等、市民による主体的なまちづくり活動が着実に根付いてきている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・低炭素型都市への転換を図るため、利用交通手段の状況などを把握し、買い物や娯楽等の消費者行動の検証を行う必要がある。
- ・秋田駅東第三地区土地区画整理事業は、平成42年度までの事業期間が予定されていることから、引き続き効率的な事業推進に努めるとともに、地区内の生活環境の向上を図っていく必要がある。
- ・地域の歴史や文化、観光資源等、地域の特色を活かした取組が広がるよう関係機関と連携を図り、地域資源の活用に向けたPRIに努めていく。
- ・更なる景観整備を図るべく、施設更新に関する計画について検討を行う必要がある。
- ・継続的ににぎわい創出を図るべく、定期的な利用者アンケートの実施等によりニーズを把握し、より効果的なイベントの開催について検討していく。
- ・市民活動に対する支援体制のあり方を検証しながら、新たな担い手の育成や連携体制づくり、活動のしやすさ等の支援に引き続き取り組んでいく。
- ・市民交流サロンのアドバイザー活動の周知や利用しやすい環境整備等に努め、市民活動の拠点としての機能強化を図っていく必要がある。
- ・各種事業の効果を分析するとともに、中心市街地の活性化に資する取組となるよう検討していく必要がある。